

いしはらのさときょうぎかい

いしはらの里協議会

～つどう ふれあう 助け合う いいとこ石原～



直販市「やまさとの市」



子供たちによる告知放送、いしはら未来会議の様子

経緯

- 過疎高齢化が進むなか、ガソリンスタンド休止、生活店舗の縮小などを契機として住民によるワークショップを開催。
- 平成24年、いしはらの里協議会を設立し、旧石原小学校を拠点に集落活動センターを開所、小さな拠点づくりに果敢に挑戦中。

取組内容

- 集落活動センターを拠点に、農産物・加工品の直販や生活店舗・ガソリンスタンドの運営、旧小学校を宿泊施設に改装した宿泊事業、各種交流事業などを実施。地域の伝統行事の継承。
- 地域資源である木材の活用策としてモデル住宅を建築し、山元から大工さんまで一貫した木材活用策と人材育成に取り組む。
- 高知県内の老舗ホテルの宿泊客を受け入れ、アメゴつかみ体験や田舎料理を提供。

活動の効果

- 地域内外の交流機会が増え、地域行事も少しずつ活気を取り戻しつつある。
- 合同会社が運営する生活店舗や直販市「やまさとの市」等での一次産品や加工品の直販をはじめ、農林業体験等の交流事業を通じて住民の所得向上に寄与。
- 若手が軸となる「いしはら未来会議」を創出、「石原の未来像について計画書」を作成し取り組みを開始。その中の「子供たちによる告知放送」は、小学校の廃校後再び子供たちの声が地区内放送を通じて住民に届き、地域に元気を与えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

様々な活動や取組みを通じて、地域外より石原を訪れる方が着実に増え、同時に石原のファンも増えている。地域内外の協力者を巻き込みながら、体験メニューや情報発信などソフト面を整備し、5年後、10年後を見据えた持続可能な集落運営の実現を目指す。

農事組合法人 上東

～未来へ生き生きと暮らせる上東を目指して～



農事組合法人上東 設立総会



ドローンによる試験防除作業

経緯

○平成12年度から各集落で中山間地域等直接支払制度に取り組んでいたが、耕作者の高齢化及び担い手不足による農地荒廃等の課題が生じた。平成21年度に地域の農地維持の核組織「上東地区営農組合」を設立し、一つに統合。平成31(2019)年1月に「農事組合法人上東」を設立。

取組内容

- 荒廃農地を再生し、地域の農地を守る活動を開始。集落営農組織主体で水稲機械の共同利用や農作業の受託に取り組む。
- 酒米の栽培やニラ、加工用ワサビなど新たな園芸品目を導入。
- 3月末の「カタシの花祭り」時期に合わせ、都市住民との交流を図る。

活動の効果

- 共同機械の利用面積の維持拡大。
- 新規作物(ニラ、加工用ワサビ等)の栽培面積拡大。
- ユズ栽培により耕作放棄地の解消及び発生防止。
- 「カタシの花祭り」の開催を通じてミュージシャンの山村誠一氏とつながり、共同で上東PAN(スティーレパン)の学校運営開始。地区外の上東地区ファンが増加。

平成27年度多面的機能発揮促進事業中国四国農政局長表彰 中山間地域等直接支払部門最優秀賞受賞

応募団体からのアピール・メッセージ

地域住民一体で、中山間地域での農業の大切さ、農村集落の素晴らしさ、田園風景の維持に取り組んでいます。カタシの花祭り、上東PANの学校を見に来てください。

高知県吾川郡いの町上八川甲1934(いの町吾北総合支所産業課) Tel:088-867-2313

11

にょどがわちょう
高知県仁淀川町

伝統の継承

雇用

6次産業化



さわたりちやせいさんくみあい

沢渡茶生産組合

～沢渡の茶 400年の歴史を次世代へ！～



お茶摘み体験ツアーのようす



ダム湖に茶園が映える沢渡地区の風景

経緯

- 400年の歴史を誇る沢渡地区の茶畑は、山林を開墾して自然茶から「やぶきた」種を植栽。上質茶の生産と美しい茶畑の景観を守ってきたが、価格の低下と生産者の高齢化で耕作放棄となる畑が増加。
- お茶づくりと茶畑の原風景を次世代に継承するため、昭和38年に「沢渡茶生産組合」を設立。

取組内容

- 「互いに助け合ってお茶づくりを守る」との思いから「ブレンドからブランドへ」を合い言葉に、荒茶の生産に加え、仕上茶（沢渡茶）も販売。
- 消費者を対象にした茶摘み体験や次世代を担う小学生等に出前授業を実施。
- 若手組合員が（株）ビバ沢渡を設立し、仕上茶、お茶を活用したスイーツを販売。スイーツは香港へ輸出。

活動の効果

- 互いに助け合ってお茶づくりを継承していくことで、高品質な茶の生産の維持に繋がっている。
- 自然と調和した茶畑を縫うように行われる勇壮な練りなど200年余りの歴史を持つ「秋葉まつり」の伝統と一体化した茶畑の風景を守っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

沢渡地区では、若手組合員が茶の加工販売を行い、仁淀川町内にお茶カフェを開店し、更に高知市にも出店するなど、積極的な取組が行われています。地域の各世代が互いに助け合ってお茶づくりを守り、高品質な茶の生産とともに先人から受け継いだ茶畑の風景を次世代に繋げていきます。

高知県吾川郡仁淀川町別枝518-1 Tel:0889-32-1209

12

によどがわちょう
高知県仁淀川町

伝統の継承

雇用

6次産業化

いけがわちやぎょうくみあい

池川茶業組合

～お茶とスイーツの共働！～



池川茶業組合員全員集合！



桜と桃の花に囲まれた白を基調としたカフェ外観

経緯

- 農家の高齢化や後継者不足により、地域の茶園の荒廃が進んでいた。また、ペットボトル茶の登場により荒茶の価格が低下し、農家の収入が下落。
- 労働力の有効活用、効率化、品質向上を図るため、8工場を1工場へ統合し、平成5年12月「池川茶業組合」を設立。

取組内容

- 30代の担い手が中心となり、茶工場運営や茶畑管理の中心的な役割を引き受け、地域の茶園維持に努める。
- 荒茶から仕上茶「池川一番茶」の販路拡大に重点を移し、週末に高知市内の量販店店頭で試飲即売を実施。
- 組合の女性部で「池川一番茶」を活かしたスイーツを開発し、販売拠点となるカフェを開店。

活動の効果

- 荒茶の市場出荷から高品質な仕上茶の小売販売に重心を移したことで、収入が確保された。
- カフェには大型バスで団体も来店、年間2万人が訪れる観光名所となり、地域の活性化と雇用の創出につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本茶インストラクター協会主催の「日本茶AWARD2018」においてファインプロダクト賞を受賞。高品質茶の生産と共に、販路を拡大することで生産に必要な地域の茶畑を維持し、先人から受け継いだ茶園の風景が次世代に継承されるよう努力を続けていきます。

高知県吾川郡仁淀川町坂本1696 Tel:0889-34-3877

13

なかとさちょう
高知県中土佐町農林漁業、農
村文化体験環境保全・
景観保全教育機関との
連携

おおのみエコロジーファーマーズ

おおのみエコロジーファーマーズ

～自然生物を大切にしながら消費者に選ばれる米作り～



高知県立大学COME☆RISHの田植え体験



イベントでの大野見米販売

経緯

- 古くからおいしい米の産地として知られる大野見地区において、大野見米を通じて地域・農業の活性化に取り組む「おおのみエコロジーファーマーズ」。
- 大野見米をとおして、将来に望みの持てる産業を確立し、環境保全型農業で四万十川源流域の豊かな自然を次世代に引き継ぐ活動を行う。

取組内容

- 高知県立大学健康栄養学部の学生で結成された「COME☆RISH」と連携し、大野見エコ米のPR活動(大野見米を使用したレシピ開発、弁当、定食の販売、日曜日への出店など)を実施。
- 地域の将来を担う小・中学生に、環境保全型農業を行うほ場周辺にどんな生物がいるかを調査する「学外・地域体験学習」を実施。

活動の効果

- 学外・地域体験学習により、将来を担う小・中学生が地域に愛着を持ち、地元で就農することを考える契機となることを期待する。
- 米の栽培に使用する肥料を大野見地区で出た牛堆肥を用い、畜産施設からの廃棄物の地域内循環を実現している。
- ブランド米を栽培する農業者・団体を視察し、稲作の栽培基準や栽培方法等を見直した。

応募団体からのアピール・メッセージ

化学肥料、化学農薬を地域慣行栽培の半分に抑える環境保全型農業により、水路や河川がきれいになり、活動も徐々に実を結びつつあります。今後も活動を継続し、大野見で農業や稲作で生きていけるよう頑張ります。

高知県高岡郡中土佐町大野見吉野12 Tel:0889-57-2022

おおのみしちめんちょうせいさんくみあい

大野見七面鳥生産組合

～持続可能な「タンパク質」生産を目指して～



ふ化に始まる生産。県産ヒノキを農場に使用



町立の加工施設、町との連携でHACCP取得

経緯

- 約50年前に始まった七面鳥の生産は、昭和60年代をピークに減少し、現在は2戸の農家で生産されるのみ。
- 七面鳥の希少性や栄養面での優位性を生かし特色ある一次産業として地域振興に繋げるため活動を開始。

取組内容

- 高知大学、ノートルダム清心女子大学と連携し、七面鳥の持つ抗疲労成分を研究。
- アスリートにカラダづくりと食の必要性を発信し、七面鳥の普及拡大を図る。
- 6次産業化を推進するため、町立食鳥加工施設を増築、県版HACCP基準を満たす加工体制を構築中。

活動の効果

- 6次産業化の事例発表、小学校、高校、大学での出前授業により七面鳥事業の周知が拡大。
- 大学との連携による七面鳥肉の分析・研究により、良質なたんぱく源としての魅力を発信することで、新規事業へ展開。
- アメリカでの高校生活で七面鳥を知り、日本の体育大学でスポーツを学んだ地域おこし協力隊員を事務局に迎え、アスリート向けに販売を展開。

応募団体からのアピール・メッセージ

七面鳥を大野見地区の広告塔とし、地域の農林水産物全体の地産外商を進め、超高齢・少子・人口減少の町から生き残りモデルを模索していきます。

また、カラダを動かし、適切な食事を摂り、健康で強いカラダを維持するということを、七面鳥というたんぱく源が豊富な食材を通して、多くの人に伝えたい。人生100年に向けて。

15

ゆすはらちよう
高知県梶原町

農林漁業、農
村文化体験

環境保全・
景観保全

雇用

ゆすはらちようしんりんくみあい

梶原町森林組合

～持続可能な森林経営で森林との共生をめざす～



斧入れ式の様子



住宅用の部材となる杉の木の切り株

経緯

- 森林から木材などの林産物を生産するとともに、その事業活動により森林や山村地域の持つ多面的機能の発揮や、山村地域における雇用の確保や地域経済に貢献することを目的に、昭和31年に設立された。
- 温室効果ガス削減、森林資源の循環利用による木材の安定供給や雇用創出への期待に応える。

取組内容

- 環境保全の取組を進めている梶原町をモデルに、平成12年10月に団体としては国内で初めて森林認証を取得。
- FSC製品の消費が四万十川清流の自然を守ることのPRにつながるため、その販売を推進。
- どこの森林から産出したか(原産地)を明らかにし、生産者と消費者がお互い確認することができるシステム(顔の見える家づくり)を提供。

活動の効果

- 自らの家を支える柱や梁となる木を森林から伐りだす【伐採祈願祭】を10年以上前に行った事をきっかけに、現在では関西圏を中心とした都市部から毎年多くの方々が参加するようになった。
- 産地ツアーでは森林から伐りだされた丸太が製材・乾燥・加工され、どのような工程を経て住宅部材になるのかを実際に見ることのできる工場見学や、世界的建築家【隈研吾】氏設計の施設を巡る事もでき大変好評を得ている。

応募団体からのアピール・メッセージ

この豊かな森林資源を適切な管理のもと「伐って、使って、植えて、育てる」循環利用によって、地域の雇用や産業振興、さらには林業・木材産業の成長化や地域創生に貢献していきます。

高知県高岡郡梶原町広野647番地 Tel: 0889-65-0121

16

しまんとちょう
高知県四万十町

伝統の継承

雇用

しまんとしんいちじさんぎょうかぶしきがいしゃ

しまんと新一次産業株式会社

～食を通じて持続可能な社会を創る～

過去



2018年迄は傾斜地で栽培、
新植を行っていました。

現在



現在は耕作放棄地(平地)を栗園へ
転換し、拡大に努めています



地域の食を守りながら、耕作放棄地の
活用に取組んでいます。

経緯

- 約50年前まで北幡地区(四万十町含む)は栗の一大産地であった(約800tの収穫量)が、現在は5～10%の収穫量。
- 生産量を上げる為H24年から山や土地の開拓に取組み、H29年には加工場を設立し、栗の一貫体制に取組む。

取組内容

- 栽培:環境保全・収量増の考えから、超低樹高栽培による無農薬栽培を実施。
- 加工:産業創出・品質向上の考えから地元加工場を設立。
- 生産:傾斜地から平地へ、かつ耕作放棄地を栗園へ転換した取組みを継続。

活動の効果

- 栗による地域活性の広がり
傾斜地から平地展開によって栽培意欲が向上。また、高齢化に伴い年々栽培が厳しくなりつつある水田を活用することで、耕作放棄地の解消にも繋がっている。
- 栗生産量の底上げ
四万十栗(ブランド)の継承、及び四万十町全体の栗生産量の拡大。
- 地元産業の活性化
自社栗園の生産、加工場におけるペースト加工販売による売上拡大、雇用拡大。

応募団体からのアピール・メッセージ

この地域で育ち、この地域でしか味わうことのできない素材、それを加工する技術の継承に努めるとともに、継続できる仕組みづくりを新たに築き、四万十町が食を通じて持続可能な地域となるよう取り組んで参ります。
何より、地域の人や若者が誇りをもって豊かに暮らしていけるよう取り組んで参ります。

高知県高岡郡四万十町河内279-2 Tel:0880-28-5594

17

しまんとちょう
高知県四万十町

農林漁業、農村文化体験

雇用

かぶしがいいしゃさんびれっじしまんと

いっばんしゃだんほうじんしまんとのうさん

(株)サンビレッジ四万十 (一社)四万十農産

～触れてみたい・住んでみたい影野村づくり～



サンビレッジ四万十・四万十農産の皆さん



未来の影野むら



田植から粃摺りまでの体験学習

経緯

- 平成11年に設立した「影野の農業を考える会」を経て、平成13年に高知県初の「1集落1農場」方式による集落営農組織「ビレッジ影野営農組合」を設立。
- 雇用の確保、営農の継続性確保のため、平成22年に農事組合法人となり、平成26年に株式会社へ移行。
- 平成29年には広域組織の四万十農産を形成する。

取組内容

- 経営の安定化に向け畑作中心とした土地利用型園芸作物(サトイモ、エダマメ、生姜、ネギ、施設ピーマン等)を導入、規模拡大など経営の複合化に取り組む。一方、水稲は四万十農産との輪作体系を實踐。
- 両組織で若い従業員8名の育成、集落内の女性17名を臨時雇用するなど、人材育成と雇用を創出。
- 環境に配慮したソーラーシェアリング、圃場環境の美化、農道への梅の木の移植など多面的機能の増進。

活動の効果

- 女性・高齢者の就労の受け皿になっており、「地域を守る法人」「就労の場」と認知度が向上中。
- 農地集積面積は11haから26haに増加、雇用人数は3名から8名に増加(H25→R2)
- 持続可能な農業の仕組みづくりがスタートしたことにより、地域に就農希望者が生まれだした。
- 農業が活性することで、地域の魅力アップが出現。
- 畑作化や耕作放棄地の解消に伴う栗・ゆず栽培開始により新産業づくりの声が聞こえだした。
- 県外からの視察も増加(多い時には3回/月)。
- 集落営農の広域化、集落活動センターなど農業以外の組織との連携も強化。

応募団体からのアピール・メッセージ

周年栽培の取組みや野菜の契約栽培と規模拡大、農産物の加工、観光農園等を利用した消費者との交流、商品の高付加価値化等経営の多角化に取り組むことで、地域で一人でも多くの雇用を確保し、地域農業を後世に繋げていきます。

URL:<http://village-kageno.jp>

高知県高岡郡四万十町影野1033 Tel:0880-22-8101